

鈴鹿亀山地区広域連合  
第7期介護保険事業計画策定に関する  
アンケート調査  
調査結果報告書

平成29年3月

鈴鹿亀山地区広域連合



# 目次

<b>I</b>	<b>調査の概要</b>	<b>1</b>
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	2
<b>II</b>	<b>調査結果のポイント</b>	<b>3</b>
1	高齢者施策全般について	3
	(1) 家族構成について	3
	(2) 外出の移動手段について	5
	(3) 将来に向けて不安に思うことについて	6
	(4) 相談する相手について	7
	(5) 地域包括支援センターについて	8
	(6) 高齢者が暮らし続けるために、必要だと思うことについて	10
2	生活状況・身体状況について	11
	(1) 介護・介助の必要性について	11
	(2) 外出を控えている理由について	14
	(3) 健康づくり・趣味等のグループ活動への参加について	16
	(4) 主なリスク判定結果について	18
	①運動器	18
	②閉じこもり	18
	③転倒	19
3	介護サービスについて	20
	(1) 今後、介護が必要になったときの意向について	20
	(2) 介護サービスについて	22
4	医療連携について	24
	(1) 在宅療養のために必要なことについて	24
	(2) 要支援・要介護者と医療との連携について	26
5	生活支援について	27
	(1) 生活支援の担い手について	27
	(2) 生活支援の受け手について	29

6	住まいについて .....	31
	(1) 住まいについて.....	31
	(2) 施設等への入所・入居について.....	32
7	認知症について .....	33
	(1) 認知症対策について.....	33
8	介護離職について .....	34
	(1) 介護者が不安を感じる介護について.....	34
	(2) 介護者の勤務形態について.....	35



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

平成 30 年度から実施する「第 7 期介護保険事業計画」策定にあたっての基礎資料とするために調査を実施したものです。

## 2 調査対象

介護予防・

日常生活圏域ニーズ調査：65 歳以上の介護保険の被保険者で、介護保険の要介護認定（要介護 1～5）を受けていない方

在宅介護実態調査：介護保険の要介護（要支援）認定を受けている在宅の方のうち、直近に更新申請又は区分変更申請をされた方

第 2 号被保険者調査：第 2 号被保険者のうち 55 歳以上で介護保険の要介護認定を受けていない方

居宅介護支援事業所調査：鈴鹿市および亀山市内の全居宅介護支援事業所

サービス提供事業者：鈴鹿市および亀山市内の全介護保険サービス提供事業者（居宅介護支援事業所を除く）

## 3 調査期間

平成 29 年 2 月 9 日から平成 29 年 2 月 24 日

## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,500 通	1,872 通	74.9%
在宅介護実態調査	2,500 通	1,662 通	66.5%
第 2 号被保険者調査	750 通	451 通	60.1%
居宅介護支援事業所調査	85 通	77 通	90.6%
サービス提供事業者	388 通	271 通	69.8%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

## II 調査結果のポイント

### 1 高齢者施策全般について

#### (1) 家族構成について

##### 問 家族構成をお教えてください。(1つを選択)

一般高齢者では、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が42.8%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」の割合が22.1%、「1人暮らし」の割合が10.3%となっています。

要支援認定者では、「1人暮らし」の割合が29.6%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」の割合が24.0%となっています。

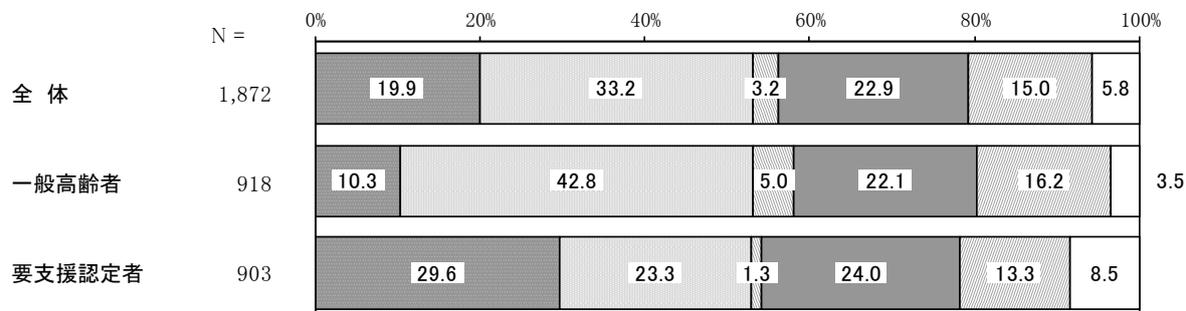
要支援認定者に比べ、一般高齢者で「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「1人暮らし」の割合が高くなっています。

在宅介護実態調査では、「単身世帯」の割合が24.7%、「夫婦のみ世帯」の割合が23.8%となっています。

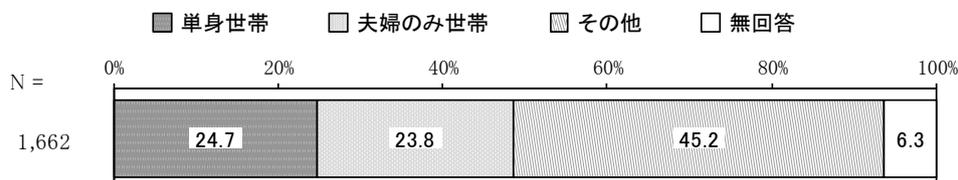
要支援認定者、要介護認定者で1人暮らしの方が2割半ばとなっています。



#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



#### <在宅介護実態調査>



前問で「2」または「3」または「4」と回答した方にお伺いします。  
 問 あなたは、日中、一人になることがありますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「たまにある」の割合が47.8%と最も高く、次いで「ない」の割合が22.4%となっています。

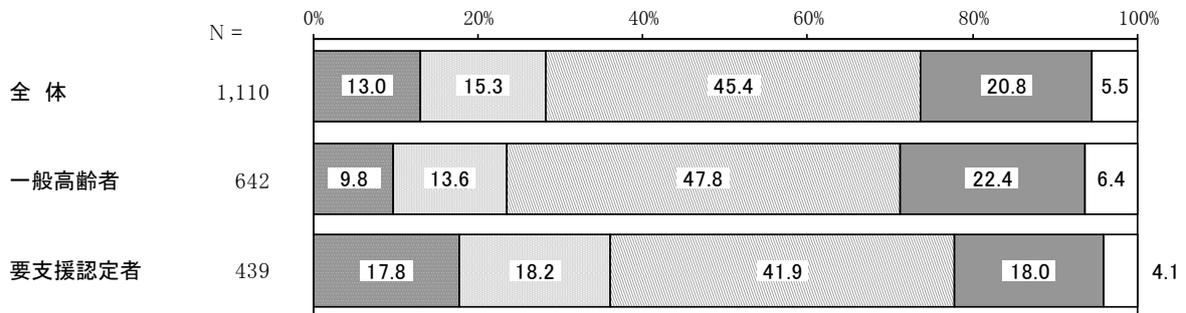
要支援認定者では、「たまにある」の割合が41.9%と最も高く、次いで「週に3～4日ある」の割合が18.2%となっています。

在宅介護実態調査では「たまにある」の割合が44.5%と最も高く、次いで「ない」の割合が27.1%となっています。

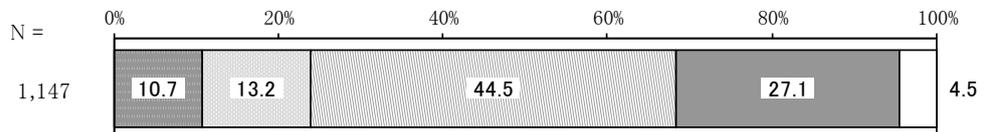
要支援認定者3割以上が日中独居となっています。

■ 週5日以上ある □ 週に3～4日ある ▨ たまにある ■ ない □ 無回答

### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



### <在宅介護実態調査>



## (2) 外出の移動手段について

### 問 外出する際の移動手段は何ですか。(複数選択可)

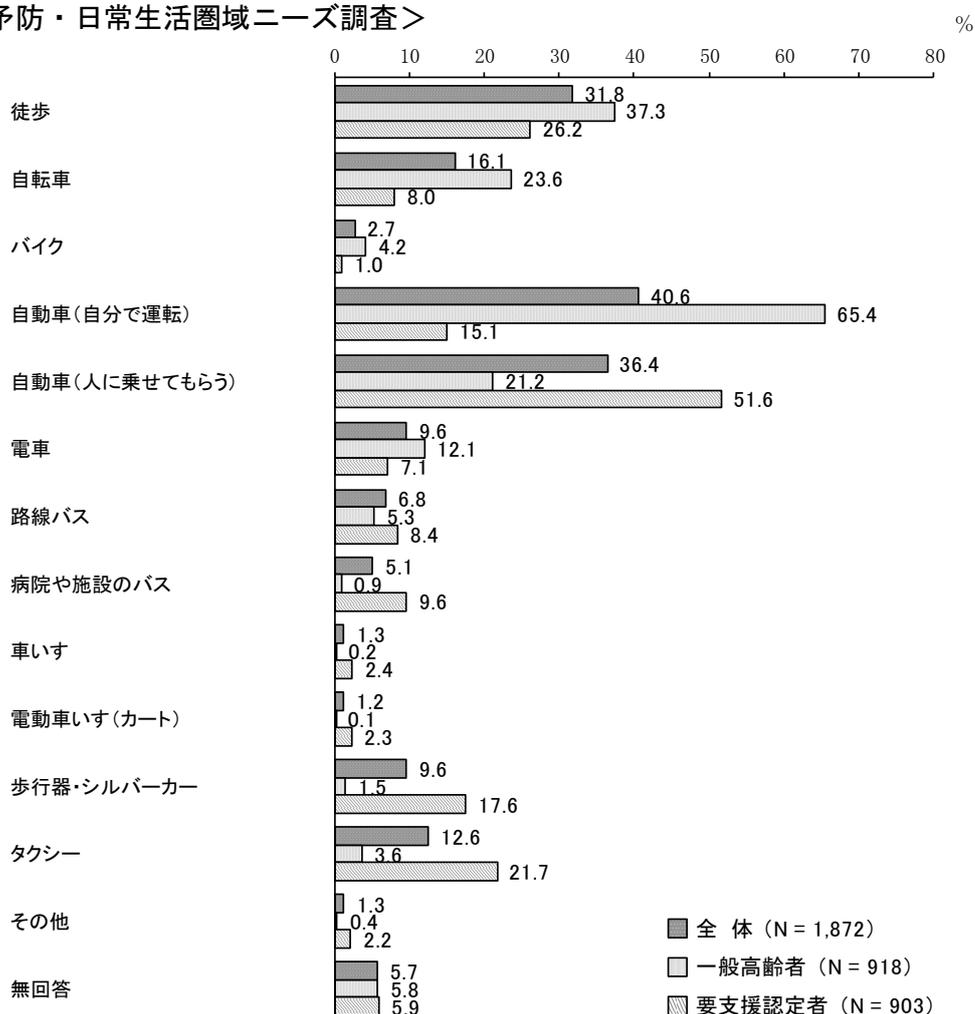
一般高齢者では、「自動車（自分で運転）」の割合が65.4%と最も高く、次いで「徒歩」の割合が37.3%となっています。

要支援認定者では、「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が51.6%と最も高く、次いで「徒歩」の割合が26.2%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「徒歩」「自転車」「自動車（自分で運転）」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「自動車（人に乗せてもらう）」「病院や施設のバス」「歩行者・シルバーカー」「タクシー」の割合が高くなっています。

要支援認定者では、移動の手段が限られることがわかります。

#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



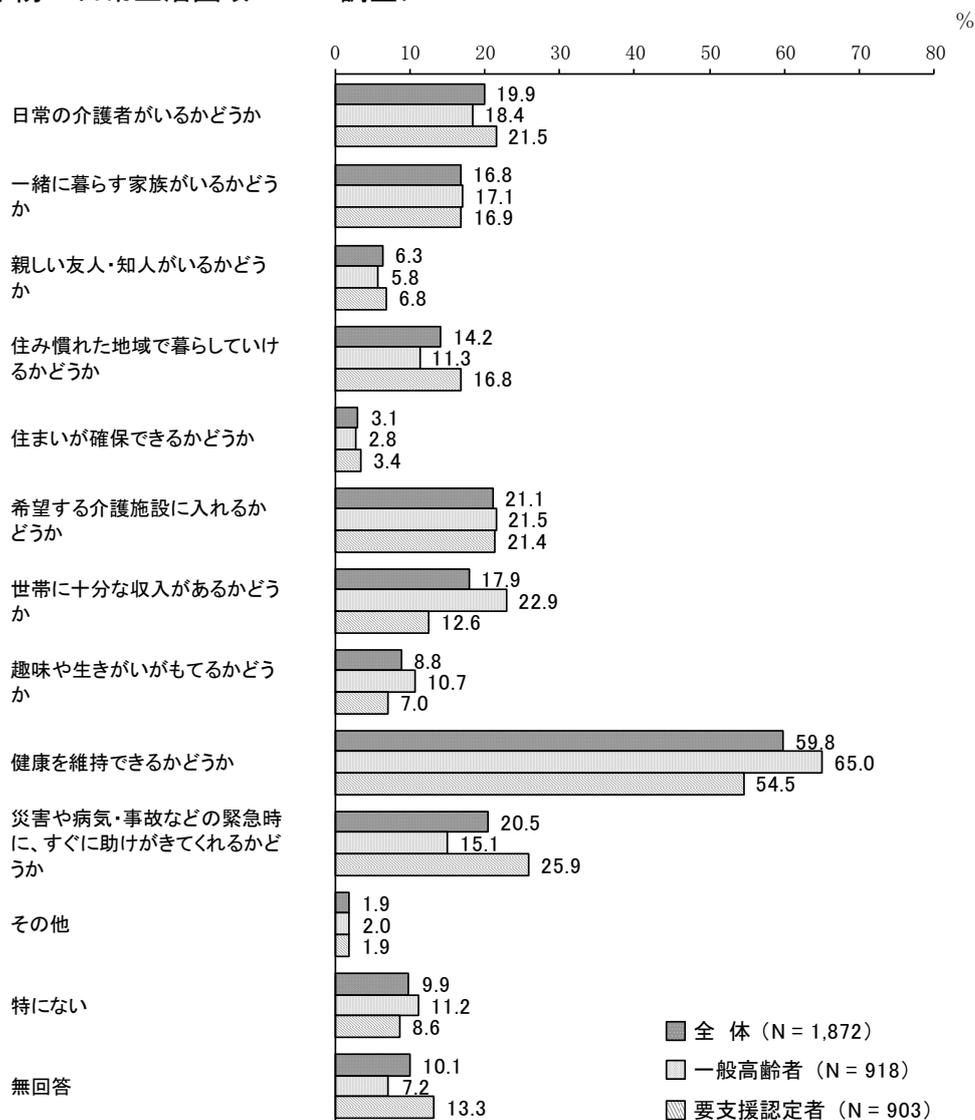
### (3) 将来に向けて不安に思うことについて

問 あなたは、将来に向けて不安に思うことはありますか。(複数選択可)

一般高齢者、要支援認定者ともに、「健康を維持できるかどうか」の割合が最も高くなっています。

一般高齢者、要支援認定者ともに、健康維持の関心が高くなっています。

#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



#### (4) 相談する相手について

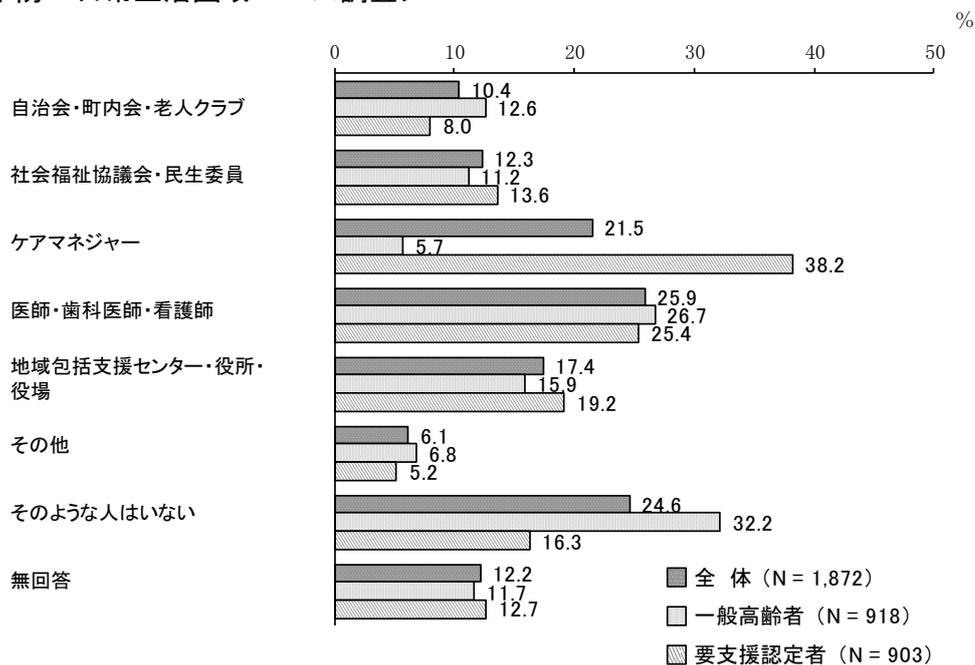
問 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。  
(複数選択可)

一般高齢者では、「そのような人はいない」の割合が 32.2%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」の割合が 26.7%となっています。

要支援認定者では、「ケアマネジャー」の割合が 38.2%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」の割合が 25.4%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「そのような人はいない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「ケアマネジャー」の割合が高くなっています。

#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



## (5) 地域包括支援センターについて

問 「地域包括支援センター」にどのようなことを望みますか。(複数選択可)

すべての調査で、「より身近に相談できる総合相談窓口がほしい」の割合が最も高くなっています。

単位：%

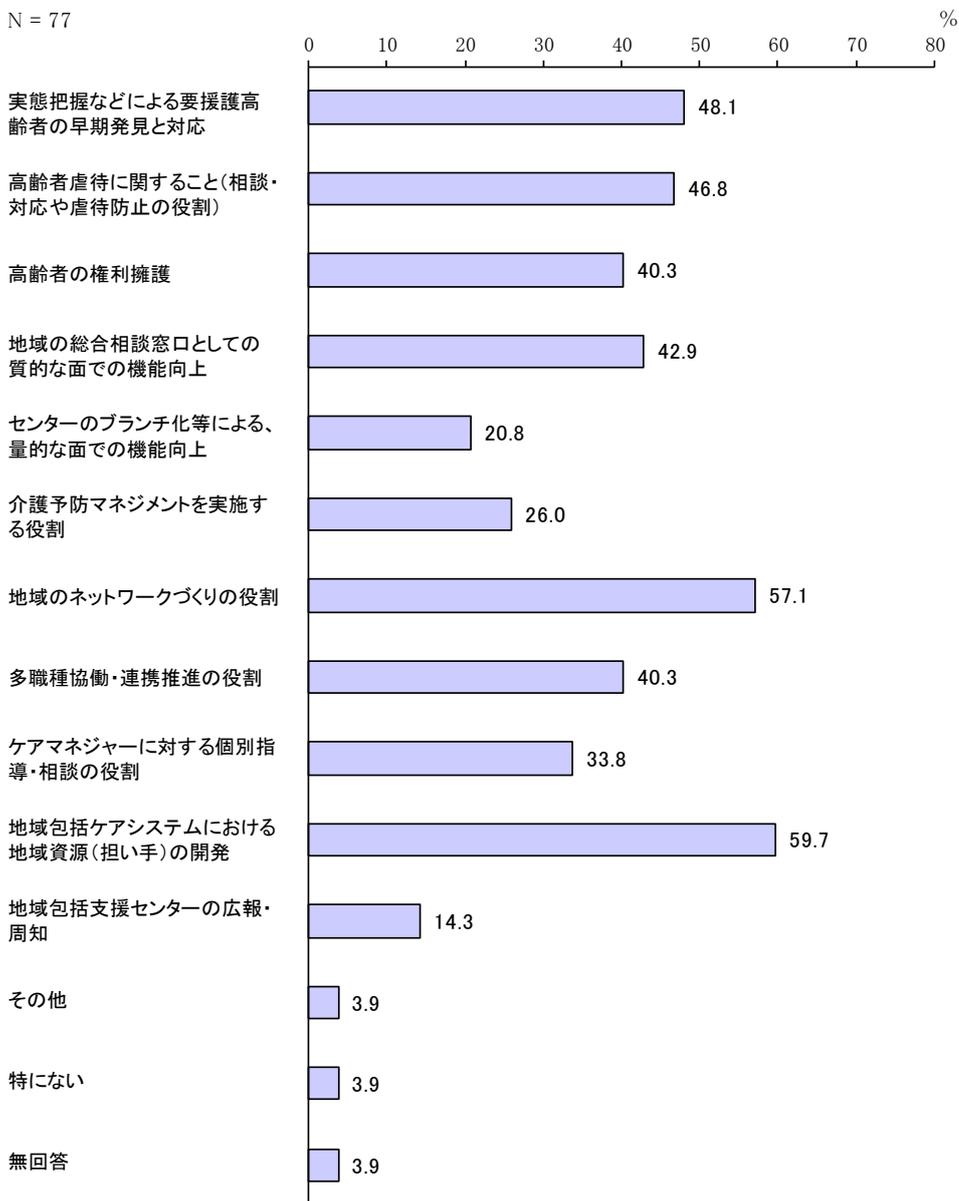
区分	有効回答数(件)	支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化	高齢者の権利(身体的・財産的)を守る役割の強化	より身近に相談できる総合相談窓口がほしい	心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実	高齢者を支援するための地域の見守りネットワークづくりの強化	高齢者が抱える問題に対し、解決に向けた関係機関のネットワークづくりの強化	ケアマネジャーへの支援や指導の強化	センターの業務内容について詳しく知りたい	その他	特にない	無回答
一般高齢者	918	28.9	8.6	41.4	21.4	15.9	14.3	11.7	19.2	1.5	8.5	19.8
要支援認定者	903	23.4	8.2	27.4	23.4	12.3	10.2	17.5	10.7	2.0	10.4	26.8
第2号被保険者調査	451	33.7	10.9	54.3	30.8	18.6	29.5	17.5	25.3	2.0	7.3	5.3
在宅介護実態調査	1662	20.6	8.1	28.0	25.5	15.2	16.5	17.7	10.5	1.0	14.9	21.4
在宅介護実態調査(介護者)	1030	18.9	7.5	26.5	26.5	14.1	15.3	19.6	7.1	1.3	10.7	30.0

問 地域包括支援センターにおいて、強化が必要と思われる機能・役割は何ですか。(〇はいくつでも)

居宅介護支援事業所調査では、「地域包括ケアシステムにおける地域資源（担い手）の開発」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「地域のネットワークづくりの役割」の割合が 57.1%となっています。

<居宅介護支援員調査>

N = 77



## (6) 高齢者が暮らし続けるために、必要だと思うことについて

問 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、あなたは、特にどのようなことが必要だと思いますか。(3つまでを選択)

すべての調査で、「介護サービスの充実(24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等)」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	介護サービスの充実(24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等)	介護予防サービスの充実(筋力の維持向上、健康予防、転倒骨折予防など)	家族内での介護・介助者の存在	介護している家族等への支援	介護保険料・利用料等の負担の軽減	介護しやすい住宅への改修	有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の充実	地域の人の見守りや助け合い
一般高齢者	918	37.5	14.4	12.6	27.9	38.9	9.5	7.7	11.7
要支援認定者	903	27.7	17.3	12.2	15.8	23.9	6.0	7.3	8.5
第2号被保険者調査	451	54.3	19.7	17.5	36.1	32.8	10.0	9.8	17.1
在宅介護実態調査	1662	32.1	18.4	13.1	27.3	28.4	7.3	6.6	6.7
在宅介護実態調査(介護者)	1030	37.7	16.8	15.6	26.6	24.7	5.4	6.1	8.5
居宅介護支援事業所調査	77	51.9	15.6	22.1	29.9	19.5	—	2.6	33.8
サービス提供事業者	271	36.9	20.3	19.9	51.3	18.8	2.2	5.2	42.8

区分	高齢者同士の支え合いができるような地域支援策の充実	ボランティアやNPOによるさまざまな生活の支援	気軽に相談できるかかりつけ医をもつこと	生涯学習の充実	特別養護老人ホーム等の入所施設の確保	その他	特になし	わからない	無回答
一般高齢者	9.7	2.3	14.9	6.3	15.0	1.1	1.5	7.3	10.9
要支援認定者	9.1	1.9	14.0	3.4	11.8	0.6	2.4	9.7	22.1
第2号被保険者調査	8.0	4.9	12.0	8.0	15.7	1.1	0.7	4.9	5.1
在宅介護実態調査	7.5	3.0	17.8	4.2	14.4	0.4	2.3	5.2	17.0
在宅介護実態調査(介護者)	4.9	3.2	13.3	2.3	12.6	0.6	1.7	3.4	27.7
居宅介護支援事業所調査	18.2	20.8	11.7	2.6	6.5	9.1	1.3	—	13.0
サービス提供事業者	12.9	10.7	13.3	10.0	3.0	0.7	—	—	7.0

## 2 生活状況・身体状況について

### (1) 介護・介助の必要性について

**問 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つを選択)**

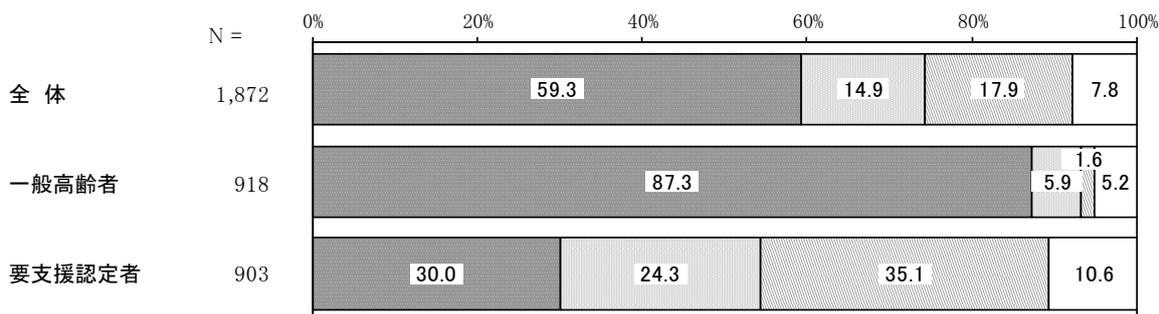
一般高齢者では、「介護・介助は必要ない」の割合が87.3%と最も高くなっています。

要支援認定者では、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」の割合が35.1%と最も高く、次いで「介護・介助は必要ない」の割合が30.0%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「介護・介助は必要ない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」の割合が高くなっています。

- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)
- 無回答

#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



前問で「2」または「3」と回答した方にお伺いします。

問 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(複数選択可)

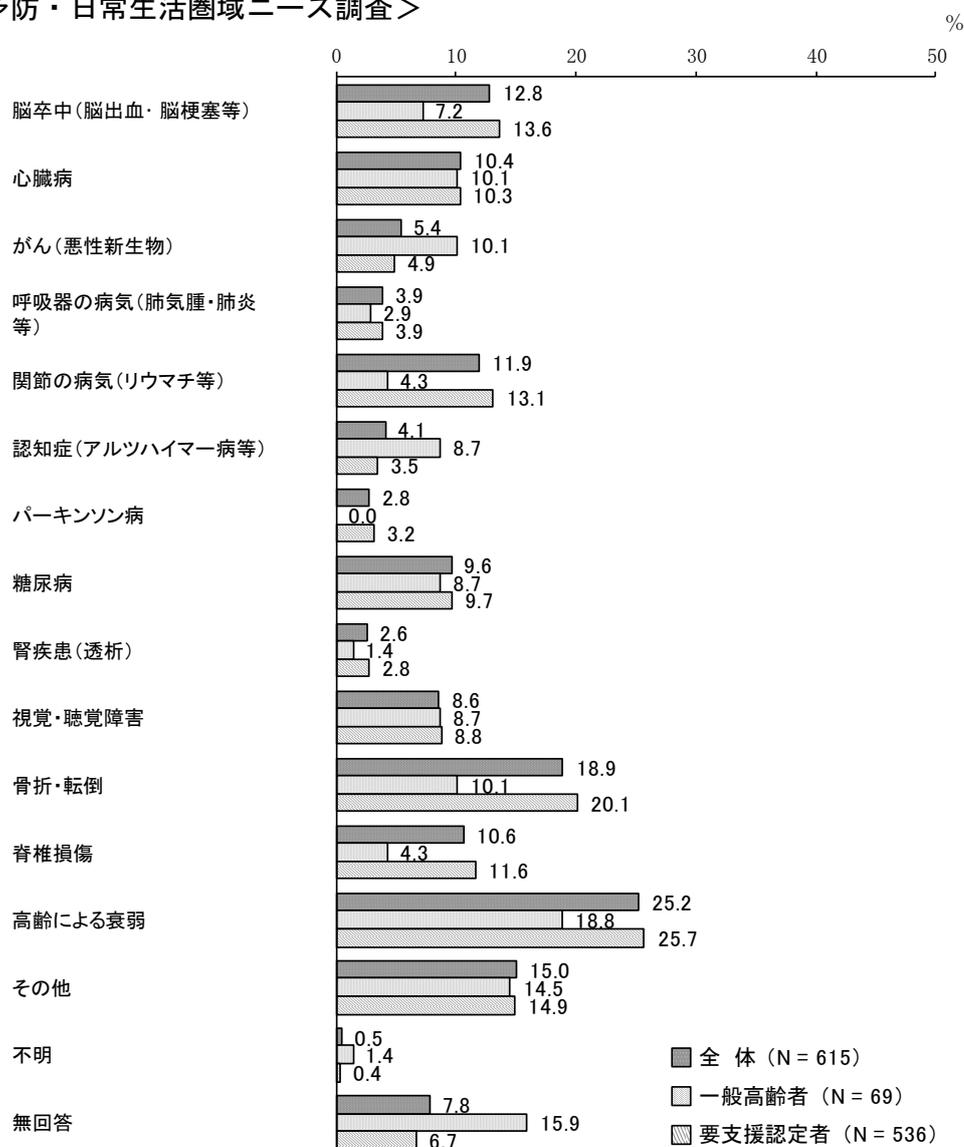
一般高齢者では、「高齢による衰弱」の割合が18.8%と最も高く、次いで「心臓病」、「がん(悪性新生物)」、「骨折・転倒」の割合が10.1%となっています。

要支援認定者では、「高齢による衰弱」の割合が25.7%と最も高く、次いで「骨折・転倒」の割合が20.1%、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」の割合が13.6%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「がん(悪性新生物)」「認知症(アルツハイマー病等)」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」「関節の病気(リウマチ等)」「骨折・転倒」「脊椎損傷」「高齢による衰弱」の割合が高くなっています。

在宅介護実態調査では、「認知症」の割合が13.2%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」の割合が10.9%となっています。

### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



## <在宅介護実態調査>

N = 1,662



## (2) 外出を控えている理由について

### 問 外出を控えていますか。(1つを選択)

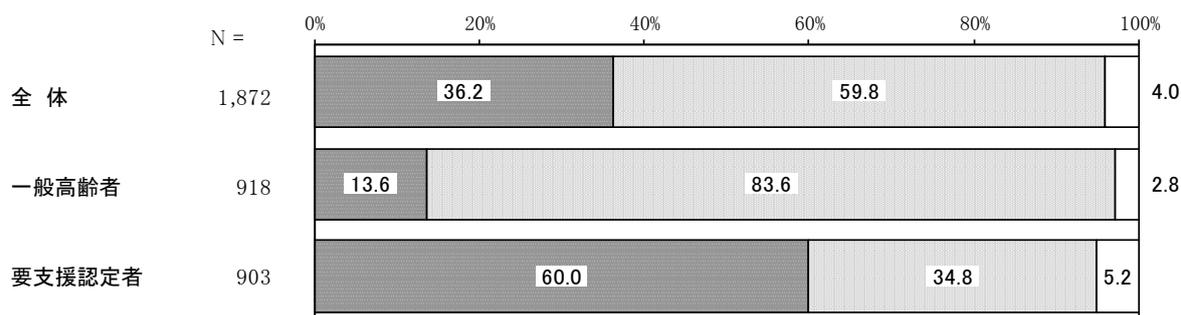
一般高齢者では、「はい」の割合が13.6%、「いいえ」の割合が83.6%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が60.0%、「いいえ」の割合が34.8%となっています。

「はい」の割合は、一般で13.6%、要支援で60.0%となっており、46.4ポイントの差となっています。

■ はい      □ いいえ      □ 無回答

#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



前問で「1」と回答した方にお伺いします。

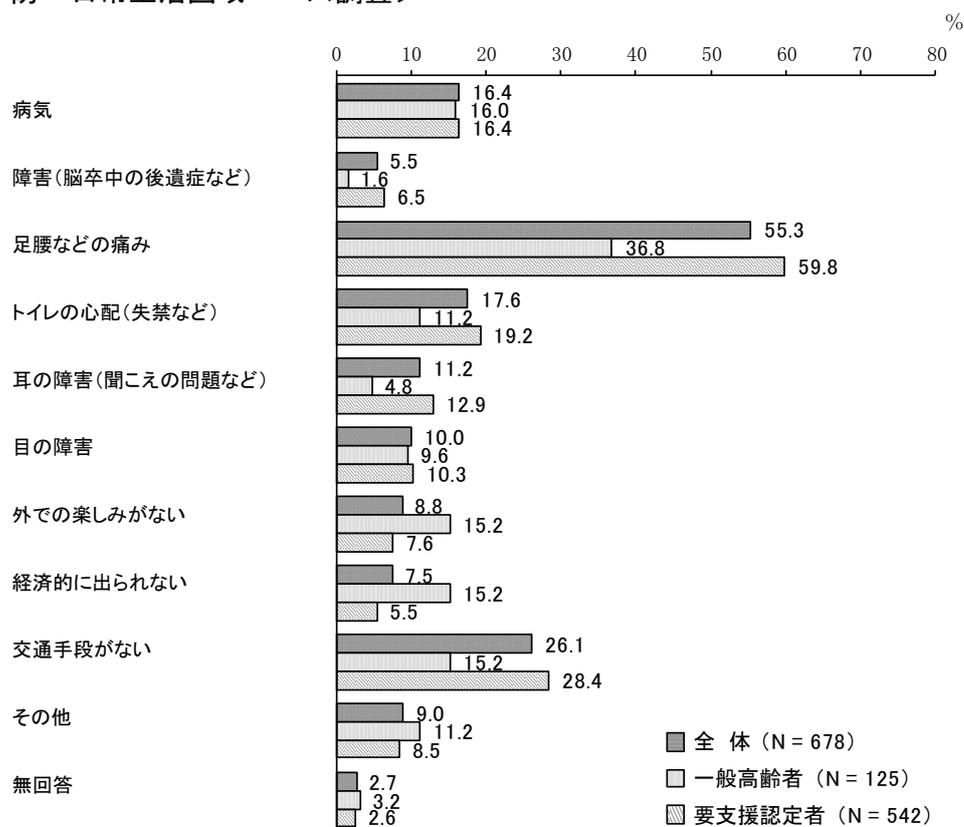
問 外出を控えている理由は、次のどれですか。(複数選択可)

一般高齢者では、「足腰などの痛み」の割合が36.8%と最も高く、次いで「病気」の割合が16.0%、「外での楽しみがない」、「経済的に出られない」、「交通手段がない」の割合が15.2%となっています。

要支援認定者では、「足腰などの痛み」の割合が59.8%と最も高く、次いで「交通手段がない」の割合が28.4%、「トイレの心配(失禁など)」の割合が19.2%となっています。

一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「足腰などの痛み」「トイレの心配(失禁など)」「耳の障害(聞こえの問題など)」「交通手段がない」の割合が高くなっています。

### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



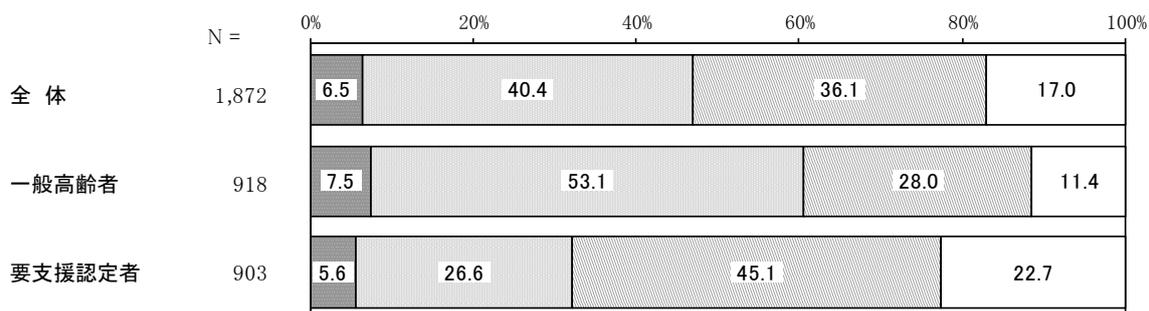
### (3) 健康づくり・趣味等のグループ活動への参加について

問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つを選択)

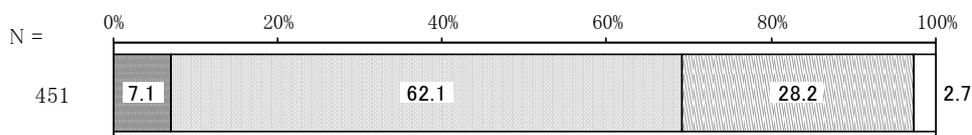
「是非参加したい」と「参加してもよい」をあわせた“参加したい”の割合が、一般高齢者では60.6%、要支援認定者では32.2%、2号被保険者調査では69.2%となっています。

■ 是非参加したい □ 参加してもよい ▨ 参加したくない □ 無回答

#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



#### <第2号被保険者調査>



前問で「3」と回答した方にお伺いします。  
 問どうすれば参加したいと思いますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」の割合が15.6%と最も高く、次いで「活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する」の割合が10.5%となっています。

要支援認定者では、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」の割合が4.2%と最も高くなっています。

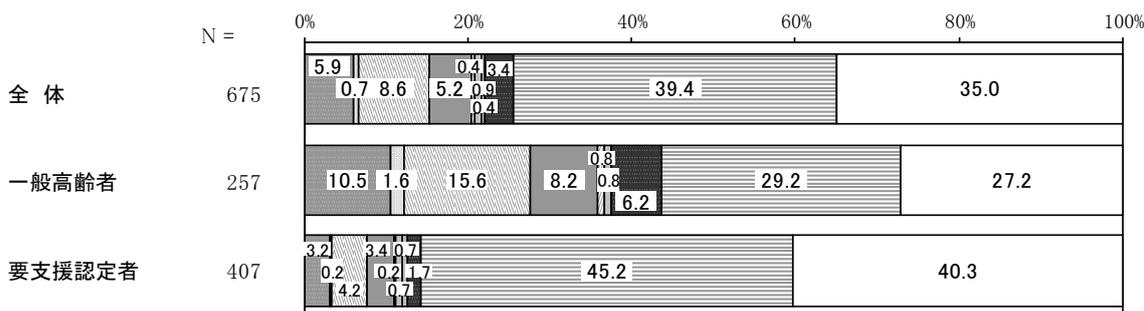
要支援認定者に比べ、一般高齢者で「活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する」「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」の割合が高くなっています。

第2号被保険者調査では、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」の割合が22.0%と最も高く、次いで「活動内容を魅力あるものにする」の割合が18.1%、「活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する」の割合が11.8%となっています。

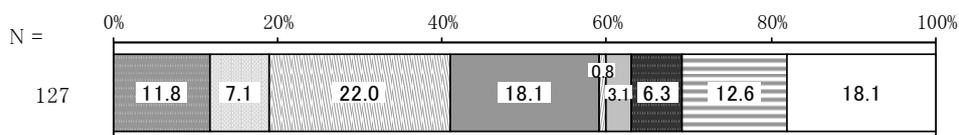
すべての調査で、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」の割合が最も高くなっています。

- 活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する
- インターネット上の参加など、多様な参加方法を用意する
- ▨ 加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす
- 活動内容を魅力あるものにする
- ▨ 成果や貢献が具体的にみえる活動をする
- 活動内容や役割を選べるようにする
- ▨ いろいろな住民組織が連携して、一緒に活動をする
- 参加した人が、何らかのメリットを得られるようにする
- その他
- 無回答

<介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



<第2号被保険者調査>



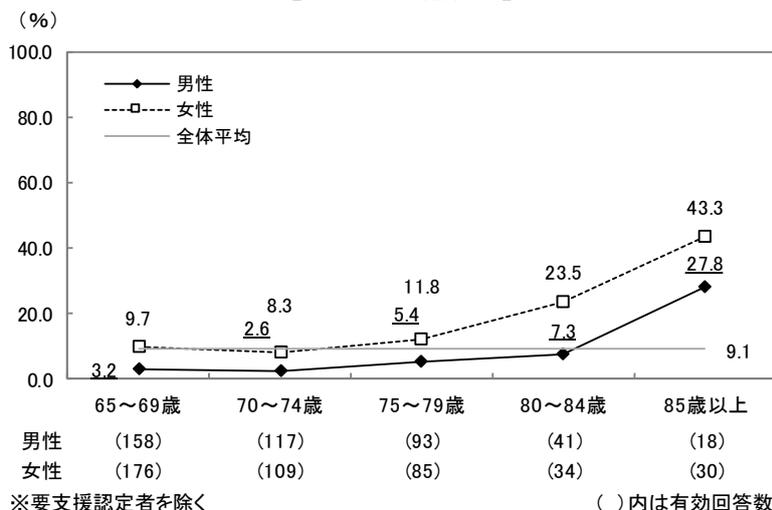
## (4) 主なリスク判定結果について

### ①運動器

国の手引きに基づく運動器の評価結果をみると、全体平均で9.1%が運動器の機能低下該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、すべての年代で男性に比べ該当者割合が高く、85歳以上では43.3%と75～79歳に比べ31.5ポイント上昇しています。一方、男性では、85歳以上では27.8%と80～84歳に比べ20.5ポイント上昇しています。したがって、男性、女性ともに75歳以降で運動器におけるリスクが顕在化し、特に女性でリスクが高くなっています。

【性別・年齢階級別】

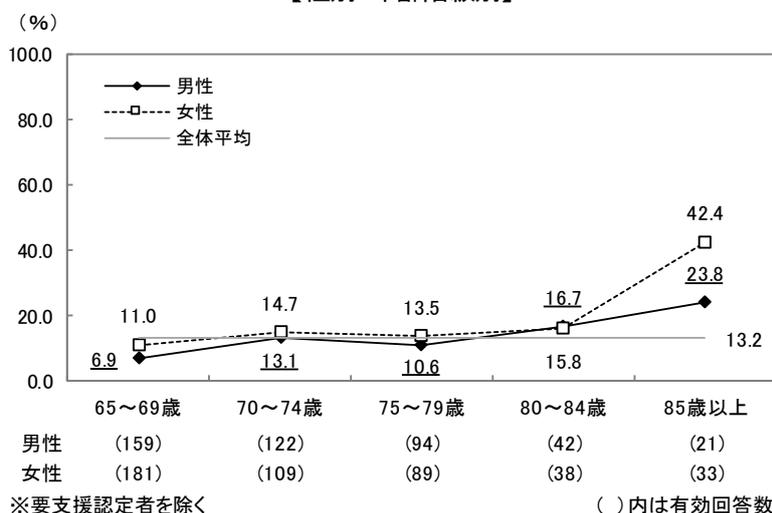


### ②閉じこもり

国の手引きに基づく閉じこもりの評価結果をみると、全体平均で13.2%が閉じこもりのリスク該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、85歳以上で42.4%と、80～84歳に比べ26.6ポイント上昇しています。また、85歳以上では、男性に比べて女性で割合が高く、18.6ポイントの差となっています。男性、女性ともに80歳以上で外出の頻度が徐々に減少し、特に85歳以上で加齢に伴う身体状態の悪化などにより急激に外出の頻度が減少しています。

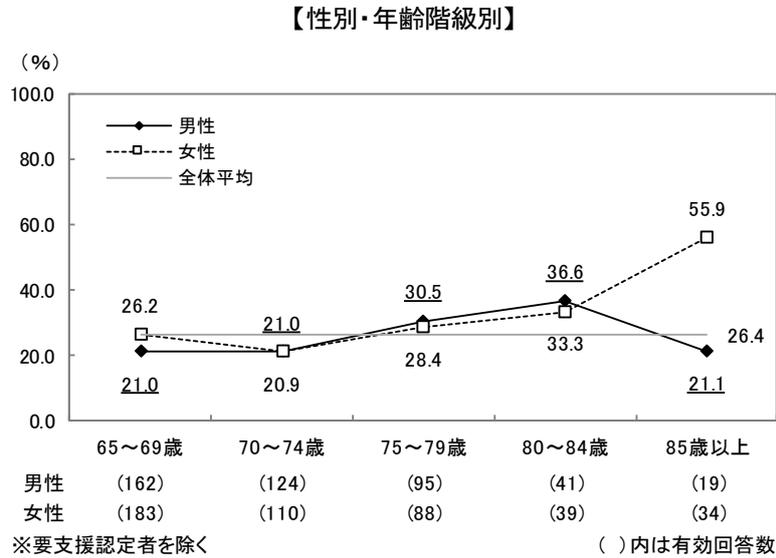
【性別・年齢階級別】



### ③転倒

国の手引きに基づく転倒の評価結果をみると、全体平均で26.4%が転倒リスクの該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男性では、65～69歳と85歳以上を除き女性に比べ転倒リスクが高くなっています。一方、女性では、80～84歳を境に上昇し、85歳以上で55.9%と80～84歳に比べ22.6ポイント上昇しています。



### 3 介護サービスについて

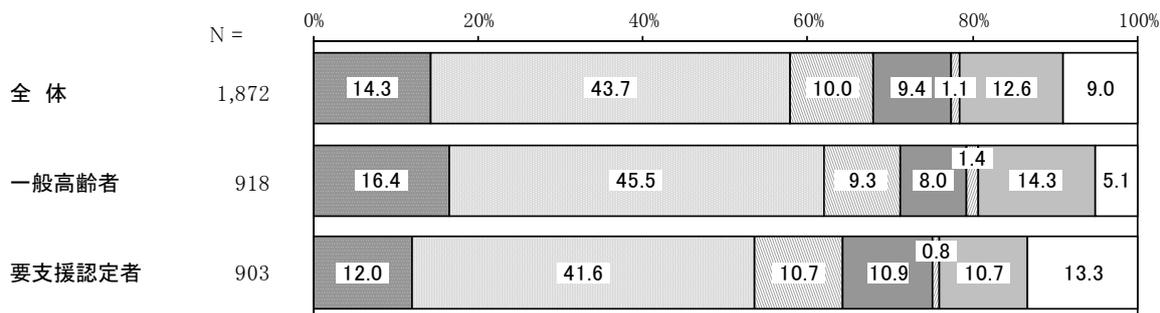
#### (1) 今後、介護が必要になったときの意向について

問 今後、仮にあなたが介護が必要な状態になった場合、どのようにしたいですか。  
(1つを選択)

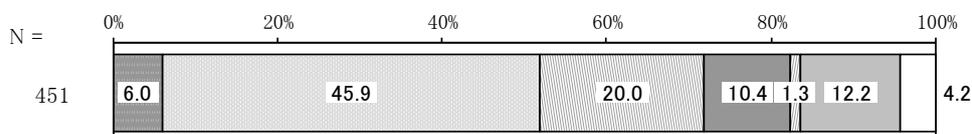
自宅で生活を続けたい方が、一般高齢者では 61.9%、要支援認定者では 53.6%、第2号被保険者調査では 51.9%、在宅介護実態調査では 61.2%、在宅介護実態調査（介護者）では 57.3% となっています。

- 家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい
- 訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい
- サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい
- 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい
- その他
- わからない
- 無回答

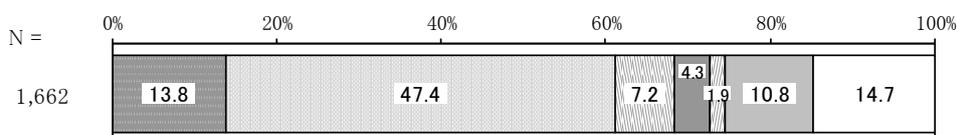
#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



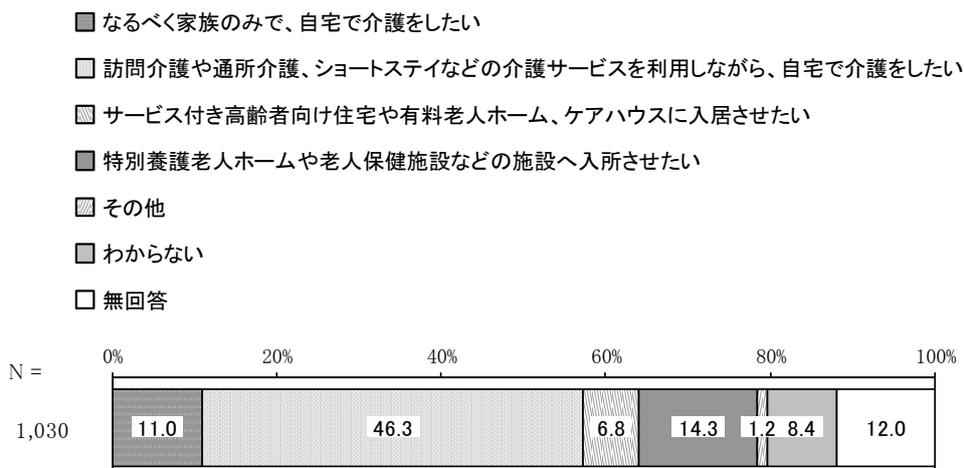
#### <第2号被保険者調査>



#### <在宅介護実態調査>



<在宅介護実態調査（介護者）>



前問で「3」または「4」と回答した方にお伺いします。  
 問 どのような条件が整えば、自宅で生活をすることができますか。  
 （複数選択可）

一般高齢者、要支援認定者、在宅介護実態調査、在宅介護実態調査（介護者）では、「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が最も高くなっています。

第2号被保険者調査では、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が最も高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊（はいかい）の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
一般高齢者	158	44.3	46.8	31.6	36.7	16.5	5.7	23.4	27.8	6.3	12.0
要支援認定者	195	36.4	40.0	24.6	31.8	9.7	3.6	12.8	27.2	5.1	22.1
第2号被保険者調査	137	56.9	51.8	41.6	38.0	27.0	20.4	54.7	38.7	4.4	3.6
在宅介護実態調査	190	30.0	40.5	23.2	24.7	16.3	12.6	28.9	38.4	8.4	17.4
在宅介護実態調査（介護者）	217	42.4	47.5	29.0	28.6	18.9	12.4	30.4	22.6	7.4	14.3

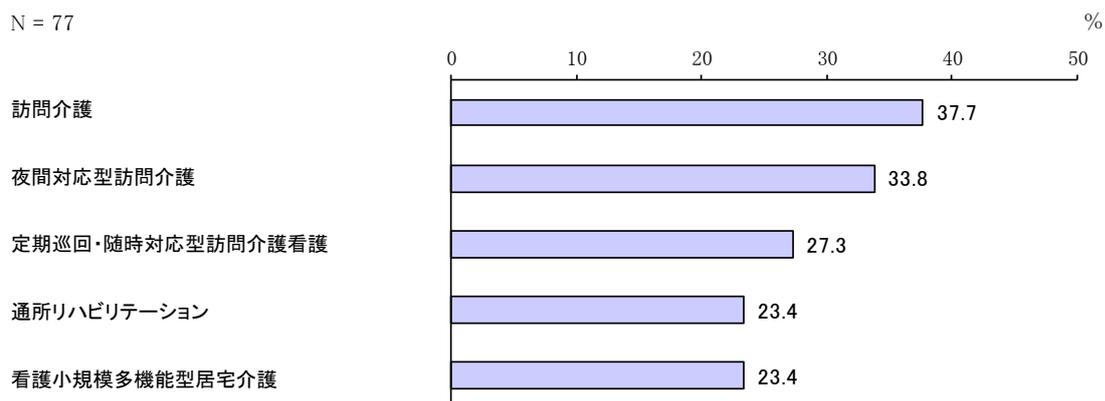
## (2) 介護サービスについて

問 現行サービス（1～44）について利用者のニーズに対し管内の提供体制で充足していると思いますか。また評価はどうか。

### サービスの量が不足

居宅介護支援事業所調査では、「訪問介護」の割合が37.7%と最も高く、次いで「夜間対応型訪問介護」の割合が33.8%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の割合が27.3%となっており、

＜居宅介護支援員調査＞



問 現計画（第6期介護保険事業計画）に対し整備が遅れているサービスについてお聞きします。  
 これらのサービスへの参入について、貴事業所ではどのようにお考えですか。

居宅介護支援事業所調査では、介護予防小規模多機能型居宅介護で「ニーズはない」の割合が高く、約4割となっています。

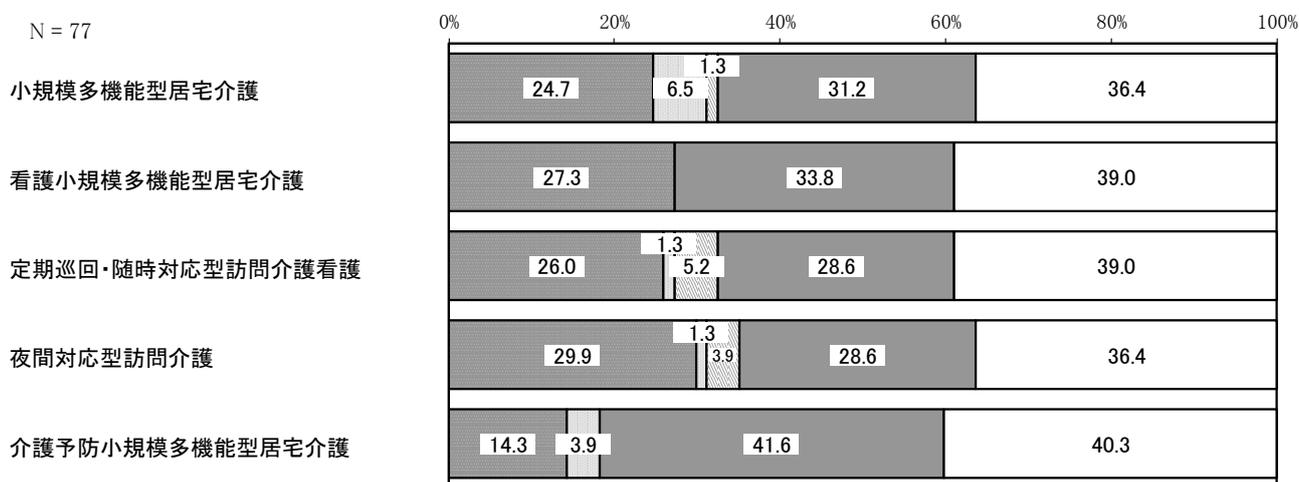
介護予防小規模多機能型居宅介護以外のサービスで「ニーズはあるので整備が必要」の割合が2割以上となっています。

各サービスで参入意向がある事業所が4～12か所あります。

- ニーズはあるので整備が必要
- ▨ ニーズはあるが、現行サービスで補完できている
- ▩ ニーズはあるが、現行サービスが充実すれば補完可能
- ニーズはない
- 無回答

<居宅介護支援員調査>

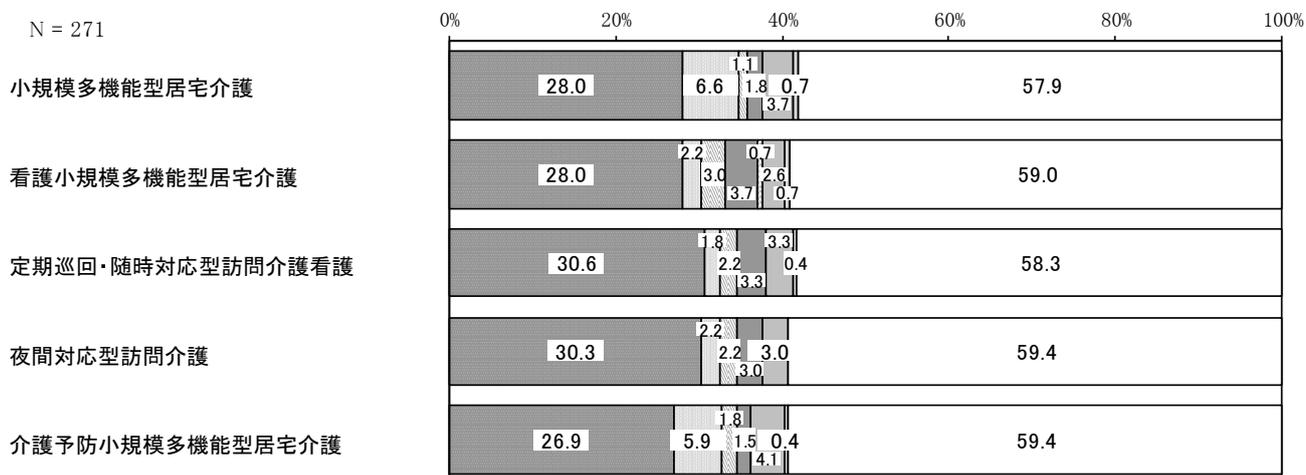
N = 77



<サービス提供事業者>

- 参入は検討していない。
- ▨ 採算が見込めないなので、参入しない。
- ▩ 採算が見込めるので、参入を検討したい。
- その他
- ニーズがないので参入しない。
- ニーズが見込めるので、参入を検討したい。
- わからない
- 無回答

N = 271



## 4 医療連携について

### (1) 自宅療養のために必要なことについて

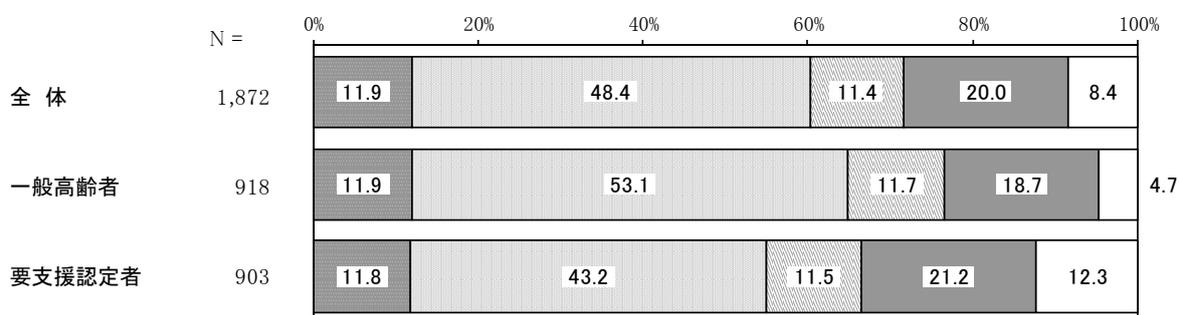
問 あなた、またはあなたのご家族が介護を必要とし、さらに、治る見込みのない病気になった場合、自宅で最期まで療養したいと思いますか。(1つを選択)

一般高齢者、要支援認定者、在宅介護実態調査では、「したいが難しいと思う」の割合が最も高くなっています。

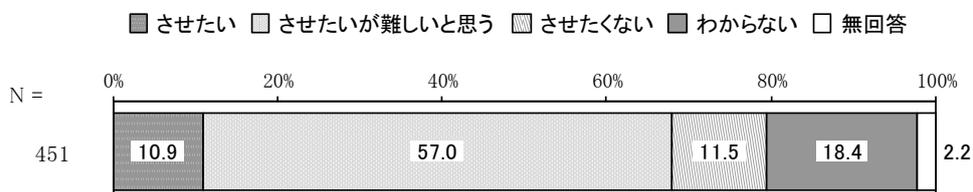
第2号被保険者調査でも、「させたいが難しいと思う」の割合が最も高くなっています。

■ したい □ したいが難しいと思う ▨ したくない ■ わからない □ 無回答

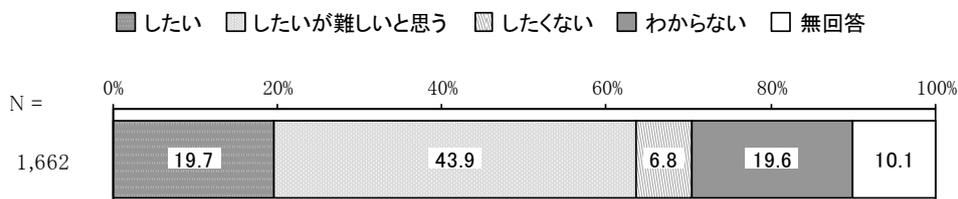
#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



#### <第2号被保険者調査>



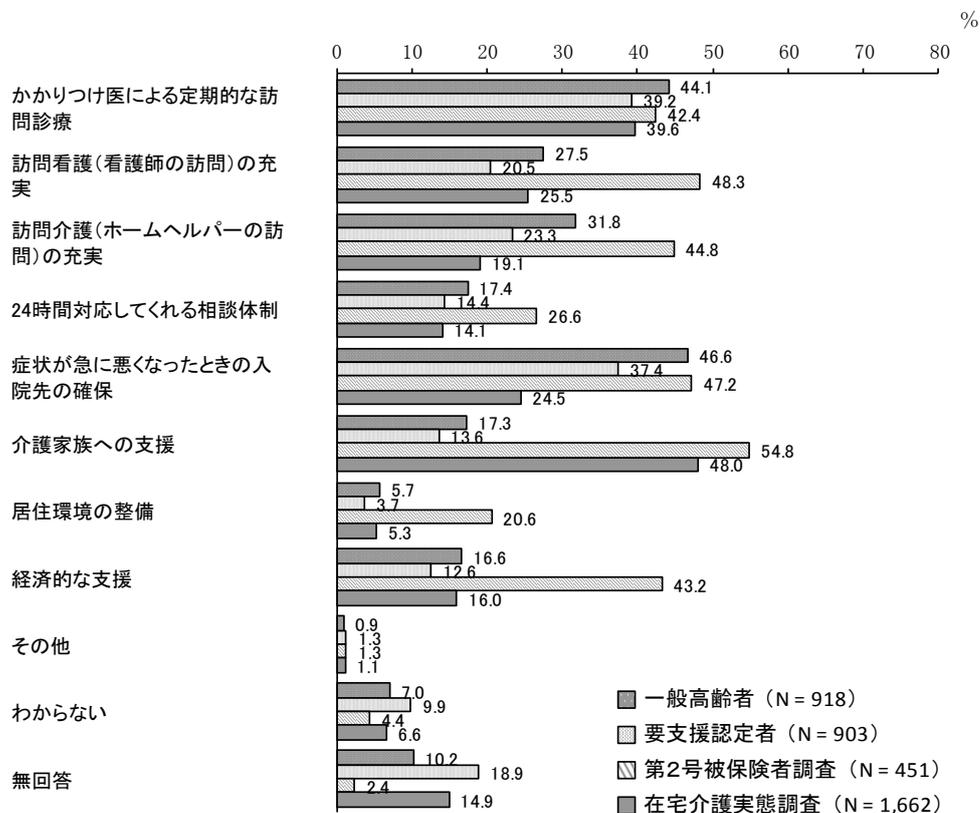
#### <在宅介護実態調査>



**問 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(3つまで選択可)**

一般高齢者、第2号被保険者調査、在宅介護実態調査では、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」の割合が最も高くなっています。

要支援認定者では、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」の割合が最も高くなっています。



## (2) 要支援・要介護者と医療との連携について

問 医療ニーズの高い要支援・要介護者の増加が見込まれる中、主治医、病院の地域連携室、訪問看護ステーションなど、医療との連携がますます重要になりますが、あなたは、次のような職種との連携がどの程度取れていますか。(〇は1つずつ)

居宅介護支援事業所調査では、(3)ソーシャルワーカーで「十分取れている」と「おおむね取れている」をあわせた“連携が取れている”の割合が高く、約9割となっています。一方、(2)病院勤務医の主治医で“連携が取れている”の割合が低く、約5割となっています。

■ 十分取れている      □ おおむね取れている      ▨ あまり取れていない  
 ■ まったく取れていない      □ 無回答

### <居宅介護支援員調査>

N = 77

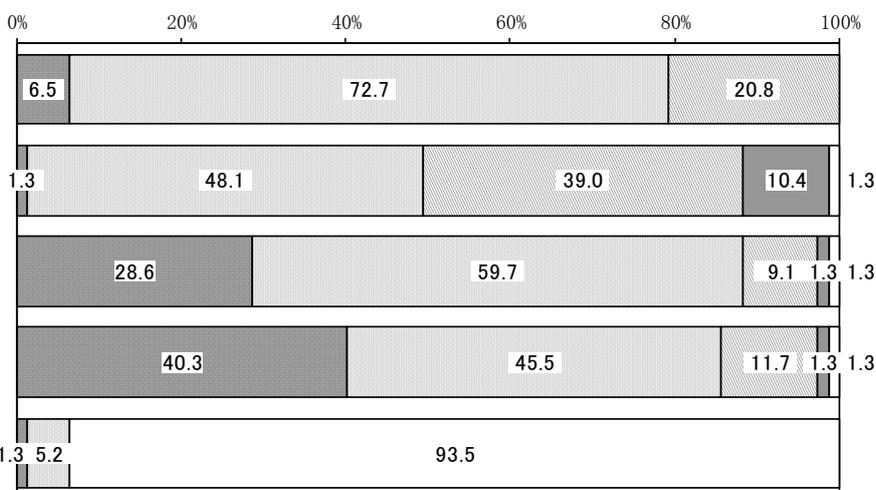
(1) 開業医の主治医

(2) 病院勤務医の主治医

(3) ソーシャルワーカー

(4) 訪問看護ステーションの看護師

(5) その他



問 在宅療養者への支援において、医療・介護は連携していると思いますか。(〇は1つ)

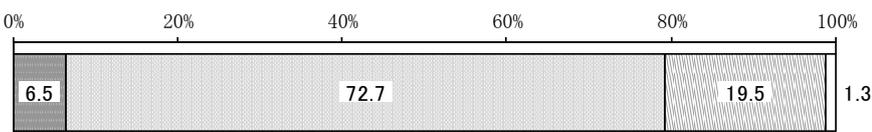
居宅介護支援事業所調査では、「十分連携している」と「ある程度連携している」をあわせた“連携している”の割合が79.2%、「連携が不十分である」と「ほとんど連携していない」をあわせた“連携していない”の割合が19.5%となっています。

■ 十分連携している      □ ある程度連携している      ▨ 連携が不十分である  
 ■ ほとんど連携していない      □ 無回答

### <居宅介護支援員調査>

N =

77



## 5 生活支援について

### (1) 生活支援の担い手について

問 あなたのご近所で、高齢者や障がい者のみの世帯など、困っている世帯があったら、どんな対応をしますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「頼まれればお手伝いしたい」の割合が44.6%と最も高く、次いで「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」の割合が18.2%、「わからない」の割合が12.0%となっています。

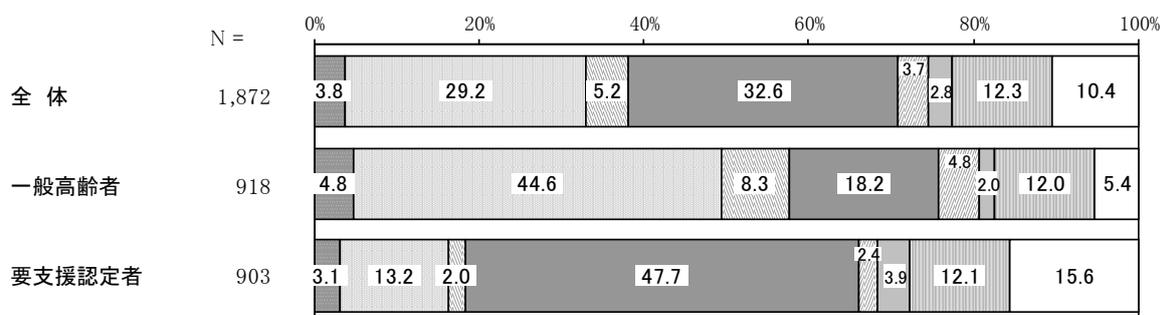
要支援認定者では、「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」の割合が47.7%と最も高く、次いで「頼まれればお手伝いしたい」の割合が13.2%、「わからない」の割合が12.1%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「頼まれればお手伝いしたい」「お節介と思われたくないのでためらってしまう」の割合が高くなっています。

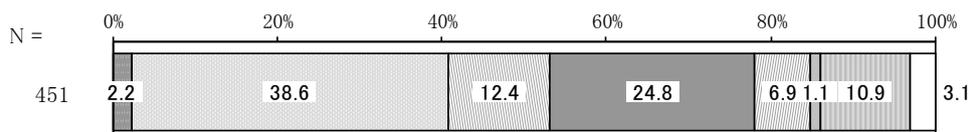
第2号被保険者調査では、「頼まれればお手伝いしたい」の割合が38.6%と最も高く、次いで「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」の割合が24.8%となっています。

- 進んでお手伝いしたい
- 頼まれればお手伝いしたい
- お節介と思われたくないのでためらってしまう
- お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない
- 福祉サービスを利用すればよく、特に自分が手伝える必要はない
- その他
- わからない
- 無回答

#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



#### <第2号被保険者調査>



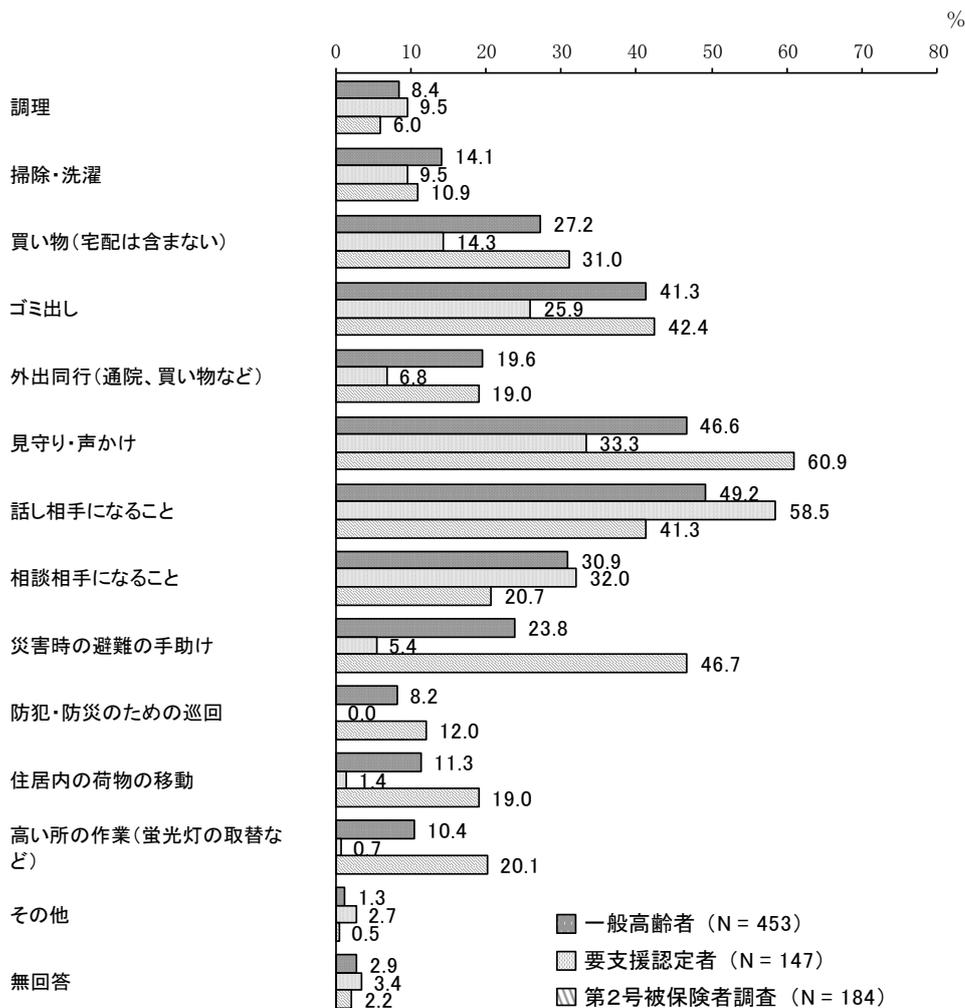
問で「1」または「2」と回答した方にお伺いします。

問 具体的にどのような手助けができますか。(複数選択可)

一般高齢者では、「話し相手になること」の割合が 49.2%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」の割合が 46.6%、「ゴミ出し」の割合が 41.3%となっています。

要支援認定者では、「話し相手になること」の割合が 58.5%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」の割合が 33.3%、「相談相手になること」の割合が 32.0%となっています。

第2号被保険者調査では、「見守り・声かけ」の割合が 60.9%と最も高く、次いで「災害時の避難の手助け」の割合が 46.7%、「ゴミ出し」の割合が 42.4%となっています。



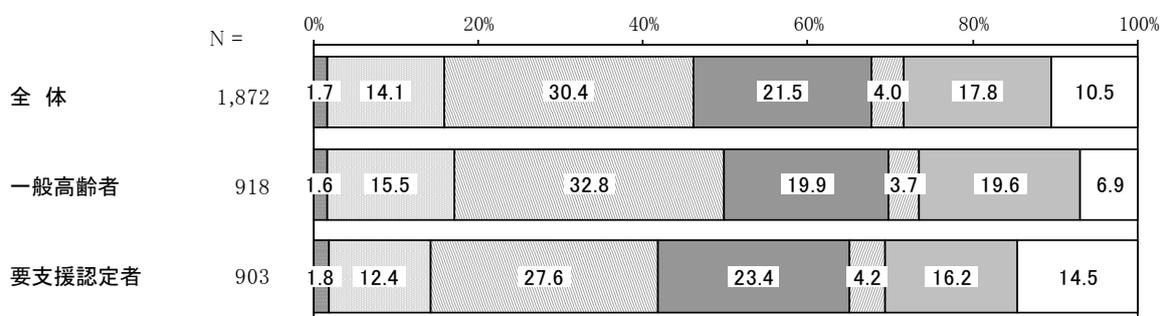
## (2) 生活支援の受け手について

問 あなたは、生活する上で手助けが必要になったとき、隣近所や地域の人から手助けしてもらいたいですか。(1つを選択)

手伝ってもらいたい人の割合が、一般高齢者では 49.9%、要支援認定者では 41.8%、在宅介護実態調査では 29.5%となっています。

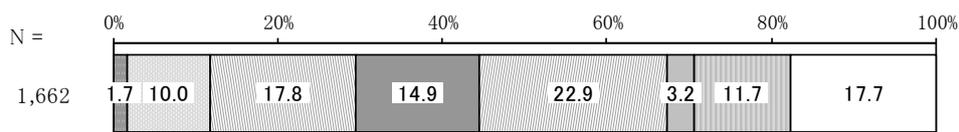
- 積極的に手伝ってもらいたい
- 可能であれば手伝ってもらいたい
- ▨ 手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのためためらってしまう
- 福祉サービスなどを利用するので、特に手伝ってもらう必要はない
- ▨ その他
- わからない
- 無回答

### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



### <在宅介護実態調査>

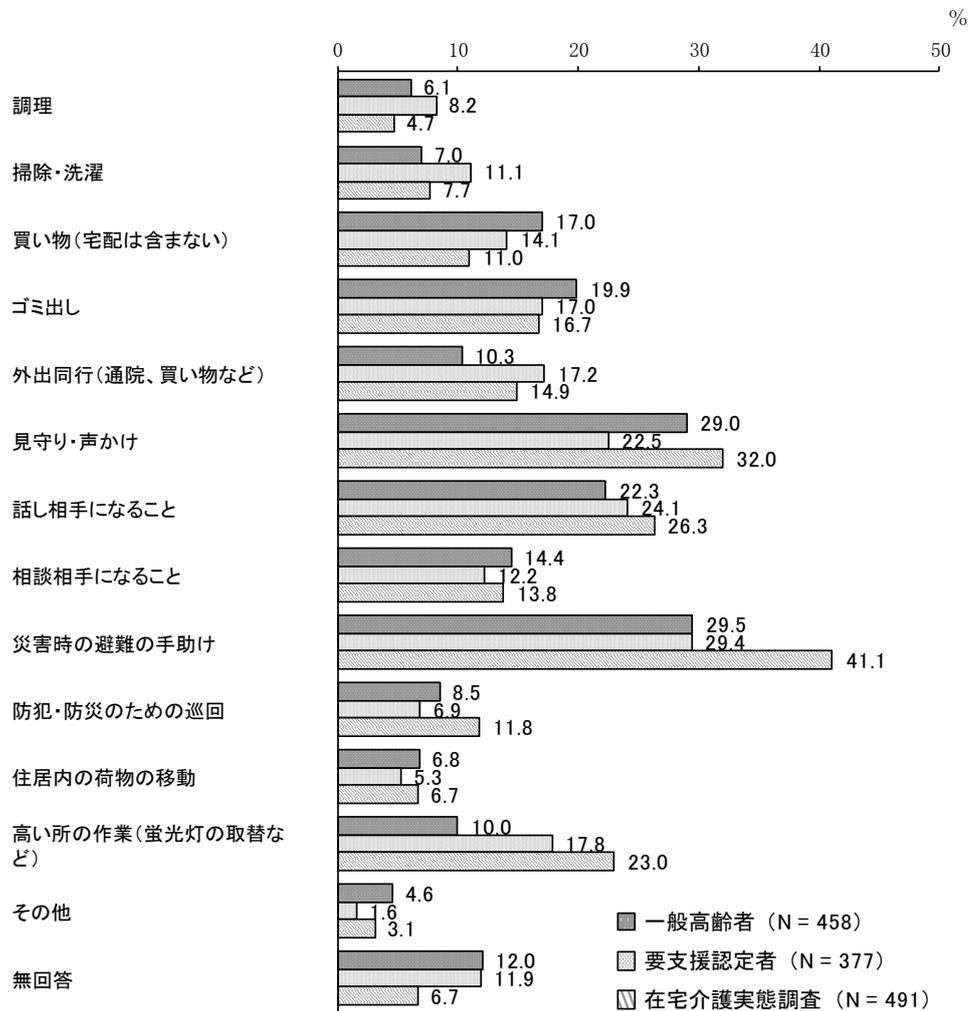
- 積極的に手伝ってもらいたい
- 可能であれば手伝ってもらいたい
- ▨ 手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのためためらってしまう
- 福祉サービスなどを利用するので、特に手伝ってもらう必要はない
- ▨ 困っていないので、特に必要はない
- その他
- わからない
- 無回答



前問で「手伝いの必要がある」と回答した方にお伺いします。

問 具体的にどのような手助けをしてもらいたいですか。(複数選択可)

すべての調査で、「災害時の避難の手助け」の割合が最も高く、次いで「見守り・声かけ」となっています。



## 6 住まいについて

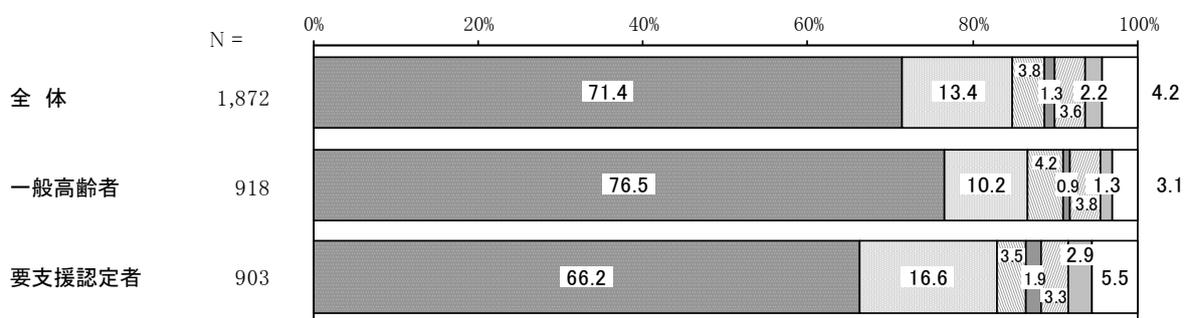
### (1) 住まいについて

**問 あなたは、現在のお住まいにこれからも住みたいと思いますか。(1つを選択)**

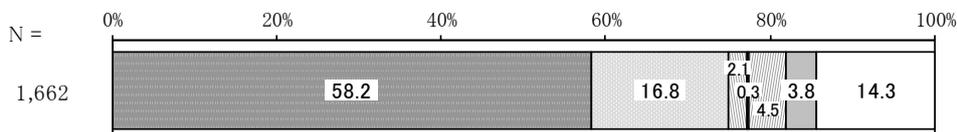
「今後も住みたい」と「できれば住みたい」をあわせた“住みたい”の割合が、一般高齢者では86.7%、要支援認定者では82.8%、在宅介護実態調査では75.0%となっています。

- 今後も住みたい
- できれば住みたい
- 機会があれば住み替えたい
- ぜひ住み替えたい
- どちらともいえない
- わからない
- 無回答

#### <介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>



#### <在宅介護実態調査>



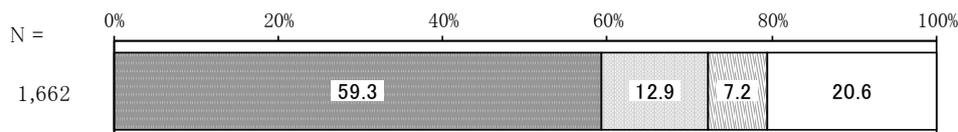
## (2) 施設等への入所・入居について

問 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。  
(1つを選択)

在宅介護実態調査では、「入所・入居は検討していない」の割合が 59.3%と最も高く、次いで「入所・入居を検討している」の割合が 12.9%となっています。

■ 入所・入居は検討していない      □ 入所・入居を検討している  
▨ すでに入所・入居申し込みをしている      □ 無回答

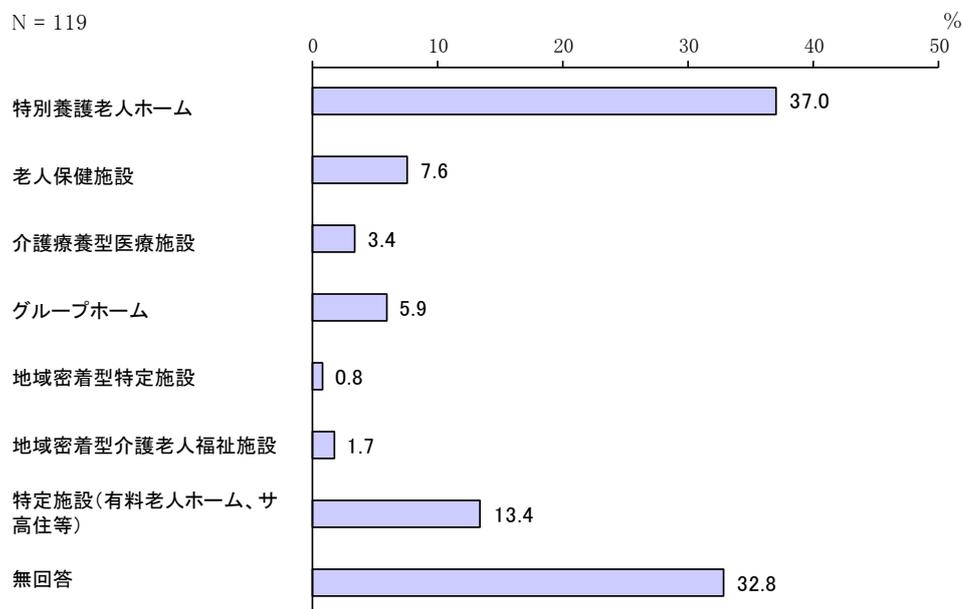
### <在宅介護実態調査>



問で「3 すでに入所・入居申し込みをしている」と回答した方にお伺いします。  
問 申請しているすべての入所(入居)待機施設の番号に○をつけて、現時点での入所(入居)待機期間を記入してください。(複数選択可)

在宅介護実態調査では、「特別養護老人ホーム」の割合が 37.0%と最も高く、次いで「特定施設(有料老人ホーム、サ高住等)」の割合が 13.4%となっています。

### <在宅介護実態調査>



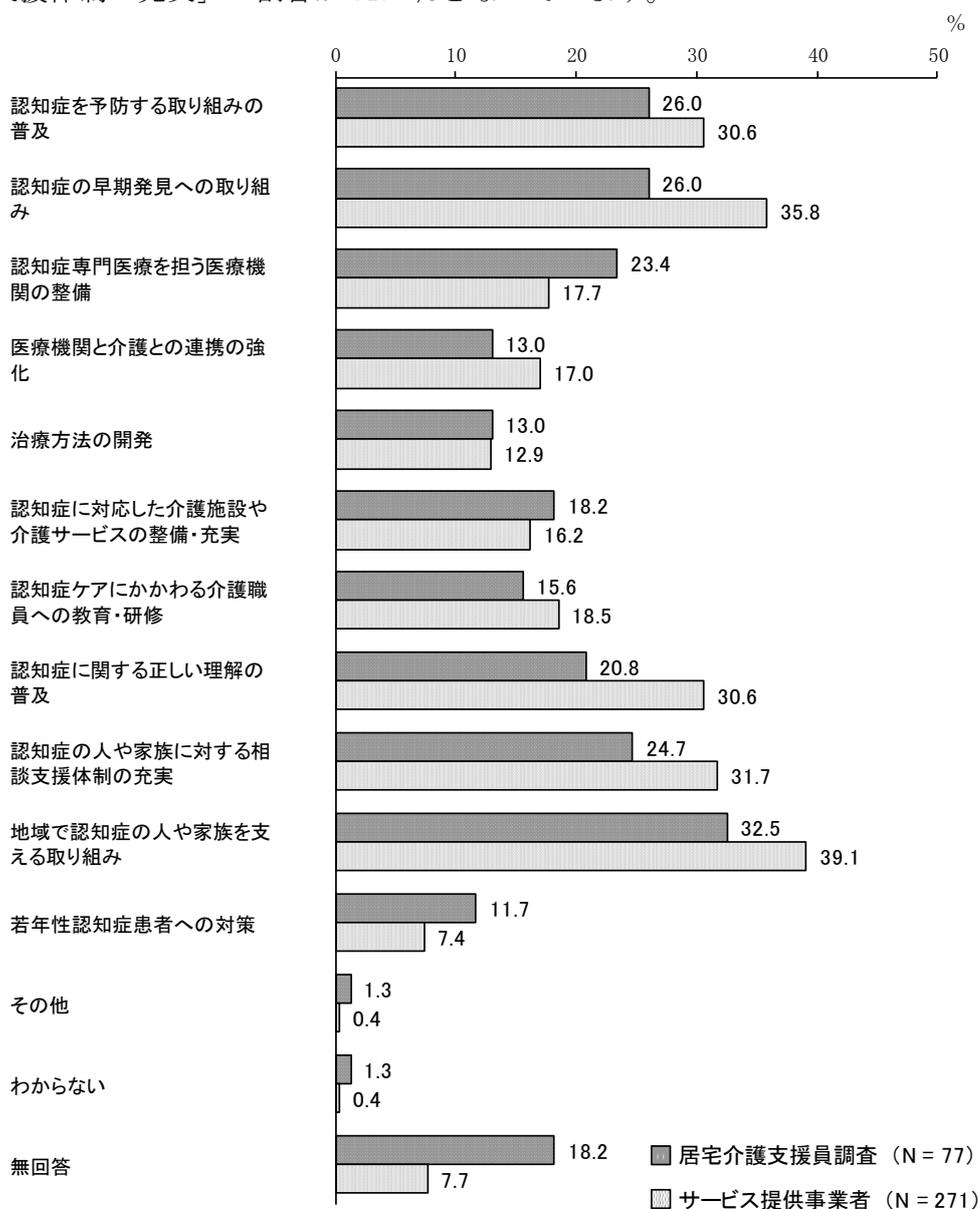
## 7 認知症について

### (1) 認知症対策について

問 社会において、特に重点を置くべき認知症対策は何だと思えますか。  
(〇は3つまで)

居宅介護支援事業所調査では、「地域で認知症の人や家族を支える取り組み」の割合が32.5%と最も高く、次いで「認知症を予防する取り組みの普及」、「認知症の早期発見への取り組み」の割合が26.0%となっています。

サービス提供事業者では、「地域で認知症の人や家族を支える取り組み」の割合が39.1%と最も高く、次いで「認知症の早期発見への取り組み」の割合が35.8%、「認知症の人や家族に対する相談支援体制の充実」の割合が31.7%となっています。



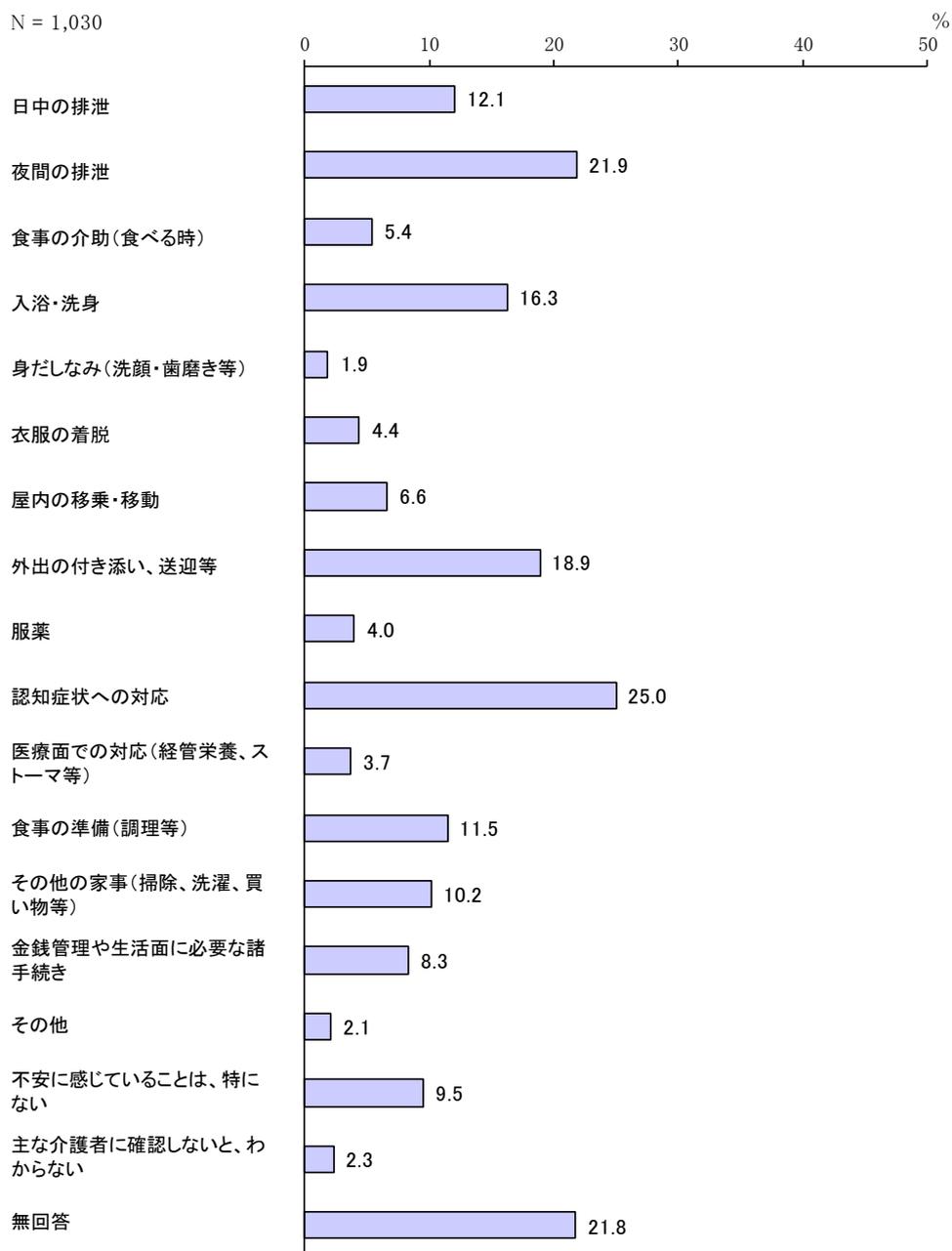
## 8 介護離職について

### (1) 介護者が不安に感じる介護について

問 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。(現状で行っているか否かは問いません)  
(3つまで選択可)

在宅介護実態調査では、「認知症状への対応」の割合が25.0%と最も高く、次いで「夜間の排泄」の割合が21.9%、「外出の付き添い、送迎等」の割合が18.9%となっています。

#### <在宅介護実態調査>



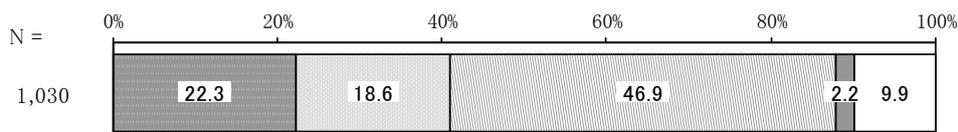
## (2) 介護者の勤務形態について

問 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つを選択)

在宅介護実態調査では、「働いていない」の割合が46.9%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」の割合が22.3%、「パートタイムで働いている」の割合が18.6%となっています。

- フルタイムで働いている
- パートタイムで働いている
- 働いていない
- 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答

### <在宅介護実態調査>

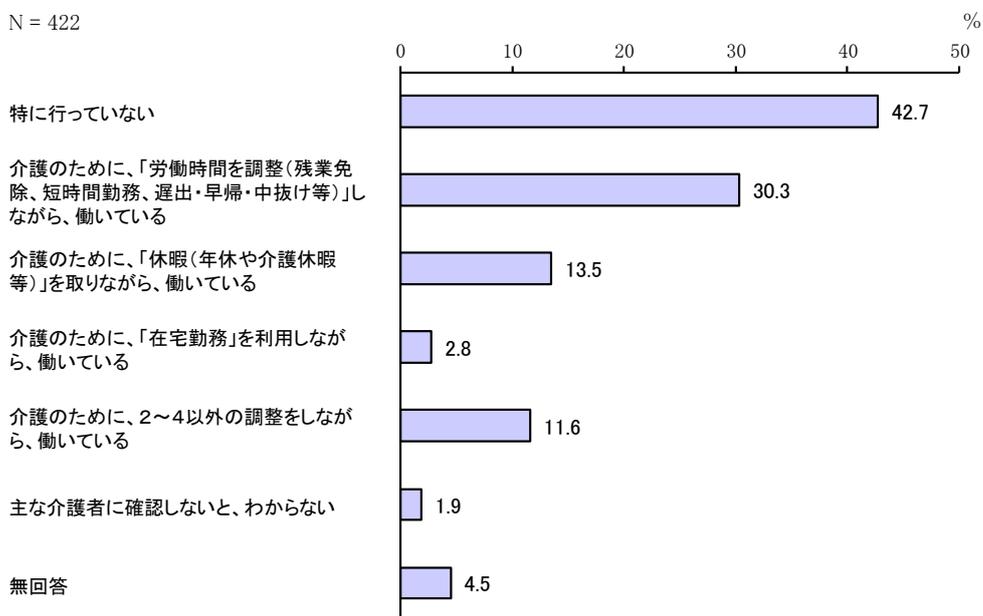


前問で「1」または「2」と回答した方にお伺いします。

問 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていいますか。(複数選択可)

在宅介護実態調査では、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が30.3%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」の割合が13.5%となっています。

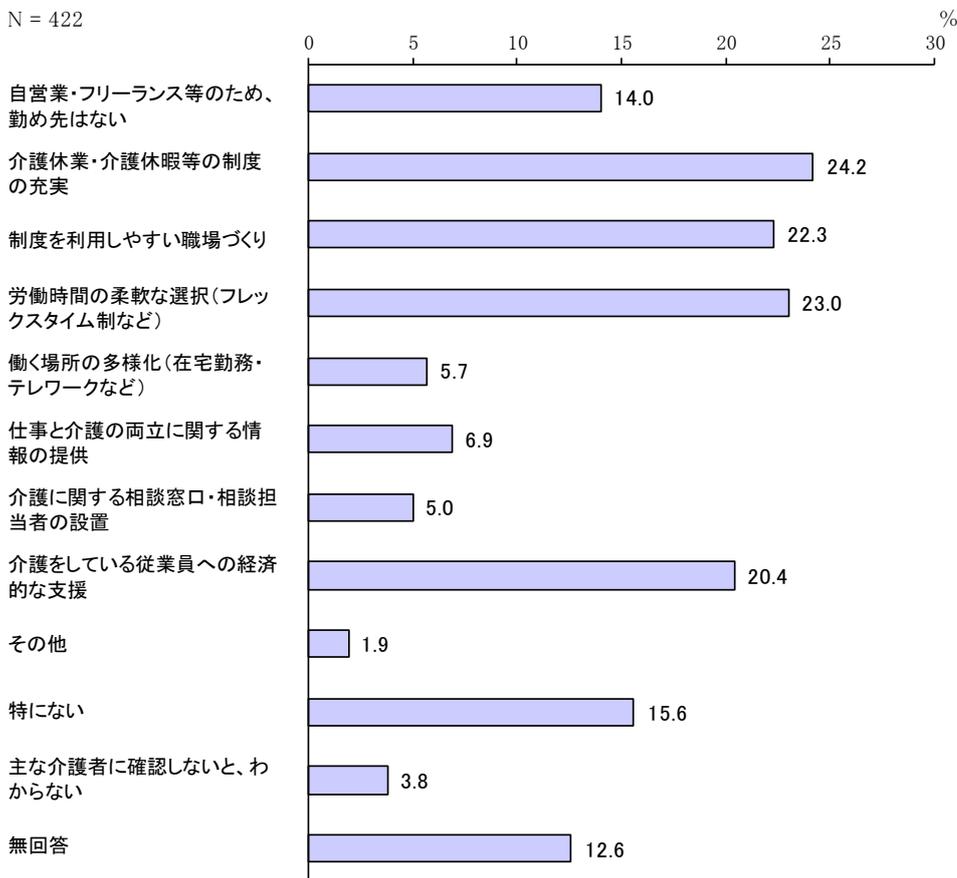
### <在宅介護実態調査>



**問 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（3つまで選択可）**

在宅介護実態調査では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が24.2%と最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が23.0%、「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が22.3%となっています。

**<在宅介護実態調査>**



**問 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（1つを選択）**

在宅介護実態調査では、「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が56.9%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」の割合が13.3%、「続けていくのは、やや難しい」の割合が10.2%となっています。

- 問題なく、続けていける
- 問題はあるが、何とか続けていける
- 続けていくのは、やや難しい
- 続けていくのは、かなり難しい
- 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答

**<在宅介護実態調査>**

